

かんもくの会だより

第1号

会報第1号発行にあたって	浜田貴照	p.1
当会の主な活動歴		p.1
会員の声		
「大人になっても治らない場面緘黙症」	田中洋子	p.4
「保護者の気持ち」	田淵 純	p.4
会員の募集		p.5
編集後記		p.5

2009年4月25日発行
制作:かんもくの会 編集委員会
<http://asmjapan.org/>

会報第1号発行にあたって

代表 浜田貴照

この度、かんもくの会の会報第1号を発行しました。制作にご協力くださった皆さん、どうもありがとうございました。

かんもくの会は2006年8月に発足しました。会報はちょうど2年ほど前から作ろうとしていましたが、着手しては途切れることを何度か繰り返しました。はじめから内容もりだくさんの会報を作ろうとしたのが頓挫を繰り返した原因だったと思い、簡単でいいからまずは第1号を出すことにしました。どうぞよろしくお願います。

当会の主な活動歴

かんもくの会の主な活動歴を年表にしました。
この年表は浜田の個人的な出来事も含んでいます。

2002年

3月 浜田が初めて「緘黙症」という言葉と出会い、自分がその当事者であったことを知りました。

緘黙症の知識を得ようとインターネット上を懸命に検索しましたが、国内ではまともな情報源を見つけることができませんでした。

海外のサイトを検索すると、緘黙症の情報が豊富にあることを知りました。

とくに、アメリカの保護者団体のサイトの情報量に驚きました。

当時日本で一般に入手できる唯一と言っていいほどの緘黙症の専門書である「場面緘黙児の心理と指導」(田研出版)を読みました。誰にも理解されるはずがないと思いついていた自分の経験した心理状態が正しく詳細に書かれているのでたいへん驚きました。著者の河井英子先生に手紙を出し、日本でも緘黙症の支援団体を作り、情報を提供する必要があることを訴えました。後日、河井先生から丁寧なお返事をいただきました。

2005年

8月 ネット上で緘黙症をテーマにしたブログを書き始めました。

9月 この年の7月にカナダで刊行されたばかりの緘黙児指導書"Helping Your Child with Selective Mutism"を入手して読みました。内容に感銘を受け、この本の日本

語訳書を出す方法を考え始めました。

2006 年

6 月 河井英子先生に"Helping・・・"を日本語に訳して出版していただけないか相談しました。先生より、田研出版にお願いをしていただきました。

お互いのブログを通じて知り合っていた当事者の方といっしょに東京の田研出版を訪れ、訳書の制作をお願いしました。

このとき、初めて「緘黙児を支援する会」という団体名を仮に名乗りました。

8 月 13 日 会のインターネットホームページを公開し、会員の募集を始めました。

9 月 会の名称を現在の「日本へ最新の緘黙症治療をもたらす会」に改称しました。また、略称を「かんもくの会」としました。

浜田が、地元の選挙区の衆議院議員で衆議院文部科学常任委員会元筆頭理事の平野博文先生に会い、緘黙症の問題を訴えました。平野先生は、国へ対策を講じるように働きかけることを約束してくださいました。

2007 年

1 月 平野博文衆議院議員の国会レポートにかんもくの会の活動が紹介されました。

7 月 20 日 "Helping・・・"の訳書『場面緘黙児への支援』が刊行されました。

9 月 22 日 日本特殊教育学会第 45 回大会(神戸市)において、シンポジウムを開催しました。

『体験者が語る緘黙症の指導体制を巡る日本の実情』

企画者: 藤田継道先生(兵庫教育大学大学院教授)、浜田貴照

司会者: 藤田継道先生

話題提供者: A 会員(保護者)、B 会員(高校教員)、C 会員(当事者)

指定討論者: 園山繁樹先生(筑波大学大学院教授)

同時に、「緘黙症小体験記集第 1 集」を発行しました。

シンポジウムの後に、会員で茶話会を開きました。

12 月 2 日 日本行動療法学会第 33 回大会(神戸市)において、シンポジウムを開催しました。

『日本における緘黙症治療の実態』

企画者: 小林重雄先生(名古屋経済大学教授)、浜田貴照

司会者: 小林重雄先生

話題提供者: D 会員(保護者)、B 会員(高校教員)、浜田貴照

指定討論者: 園山繁樹先生(筑波大学大学院教授)

シンポジウムの後に、会員で茶話会を開きました。

2008 年

- 4 月 **会員を対象に行動療法・認知行動療法実施機関の紹介を始めました。**
- 9 月 19 日 **日本特殊教育学会第 46 回大会(鳥取県米子市)において、シンポジウムを開催しました。**
『緘黙症克服への取り組みのために』
企画者: 久田信行先生(群馬大学教授)、浜田貴照
司会者: 藤田継道先生(兵庫教育大学大学院教授)
話題提供者: E 会員(当事者)、浜田貴照、久田信行先生
指定討論者: 加藤哲文先生(上越教育大学大学院教授)
同時に、「緘黙症小体験記集第 2 集」を発行しました。
シンポジウムの後に、会員とシンポジストの先生方を交えて茶話会を開きました。

2009 年

- 4 月 **会報第 1 号を発行しました。**

以上のほか、主に関西で会員集会を開いています。昨年は関東と名古屋でも集会を開きました。

会員の声

「大人になっても治らない場面緘黙症」

田中洋子（仮名）

この会に入ったきっかけは、かんもくの会の一般ホームページを見ていて、緘黙症のシンポジウムがあることに気がついて、そのシンポジウム参加することに決めて、代表の浜田さんに、一般ホームページの問い合わせ先から、シンポジウムの参加の仕方を聞いて、シンポジウムに行きました。

シンポジウムに参加して、話を聞いて、色々な気持ちが出てきて、かんもくの会に入ってみてほしいと思ったのです。私にも何かできるかもしれないと思ったからです。

その時の私は、20歳過ぎに病院で場面緘黙症と診断されてから、この病名を知らなかったので、インターネットで調べて、詳しく知って、この病気をなんとかしたい気持ちが強かったです。この場面緘黙症という病名を、病院に行ってもすぐに診断してもらったわけではありませんでした。外来で何度も主治医と筆談で話をして、自分の状態を話して（子供の頃からの話もして）、主治医も色々病名を調べてくれていたのですが、すぐに見つからなくて、早く病名を知りたいと思っていたのです。

何回目かの外来で、場面緘黙症の特徴である、「家の中では普通に話すのに、家の外では話ができない」ということで、私はこの病名だと言われました。

インターネットで調べて、この病気は、子供の病気だと書いていて、その時の私は、大人で20代前半だったので、混乱していました。理解するまで時間がかかりました。

今も治っていない場面緘黙症の症状を持ちながら、生活しています。

なんとかして治したいので、色々自分で、治るきっかけを探したりしています。

「保護者の気持ち」

田淵 純（仮名）

子供が、この春から中学生になります。ただ、入学式に出席しそうになく、中学校に行くことが期待できない状況です。6年生もあと少しで終わる2月の中ごろから小学校に通うことを止め、小学校の卒業式には出席しませんでした。

私は12歳になる緘黙症の女の子の父親です。子供はいつから緘黙になったのか、遅くとも幼稚園の時には緘黙の症状が見られました。バス通園の送り迎えのときに挨拶をすることが出来ず、先生の問いかけに返事をする事もなく、友達ともしゃべっている様子が見られませんでした。幼稚園の先生には何度か聞きましたが、「大丈夫ですよ。」というだけで、結局先生から子供の症状についての情報を得ることは出来ず、緘黙という単語を聞くことはありませんでした。

小学校に入学し、担任の先生からのアドバイスで、教育委員会の施設である教育センターに週1日親子ともどもカウンセリングに通うようになりました。そこで約2年間、遊戯療法を試みしました。その後は約3年間、民間のカウンセリングを受けてきましたが、症状が改善することなく、子供は思春期にさしかかっています。

小学校での6年間、毎年クラス替えがあり、子供にとってはクラスに慣れて少しリラックスできるようになったところに、先生も友達も変わってしまうということが繰り返されていたように思います。小学校の最後に不登校になったのは、本人は言わないのであくまで想像ですが、信じていた友達との関係が壊れてしまったことが大きな原因のひとつだと思われます。

自宅以外では自己表現がままならないので、いままでいやなことがあっても学校には通いつけていたわけです。前向きに考えれば、今回の不登校は初めて自分の意思をはっきりと態度で表現したと考えることも出来ます。中学校にいくかいかないか、そんなことはこの子の一生の中で考えると、大したことではないかもわかりません。ただ、親としてそのように考えて接してあげるのがいいのか、何か他に取るべきよりいい方法があるのか、わからない状況です。

本人はどうしたいのか、どうしてほしいのか、自分の意思を表現しません。それは本人にもどうしていいのかわからないのか、それともはっきりした意思はあるが表現しないだけなのか、親として突き詰めて確認することもなかなか難しい年齢になっています。

現在の子供と同じ中学校入学時ぐらいに、緘黙の症状を経験された会員の方がいらっしゃいましたら、その当時どんなことを考えて生活していたのかアドバイスいただけたら有難いです。人それぞれなのはわかっていますが、子供の気持ちを少しでも理解してあげるヒントになればと思います。よろしく願いいたします。

追伸

4月14日現在、中学校には通えていません。

会員の募集

当会では活動に賛同していただける会員を募集しています。当会のホームページで詳しい入会案内をご覧ください。

かんもくの会ホームページ <http://asmjapan.org/>

編集後記

簡単ながら第1号を発行しました。

本当は当会の目標や活動方針を冒頭に掲載する予定でしたが、今回はご挨拶だけで失礼しました。次号以降でお話ししたいと思います。

これからもよろしく願いします。

(浜田)